

学力調査結果 【2年生】

(1)全体を通して

2年生は、平成29年7月6日実施の東京都の「児童生徒の学力向上を図るための調査」の結果を分析しました。5教科すべてにおいて、東京都の平均正答率とほぼ同様の結果でした。内容を観点別にみると教科によってバラつきはありますが、「知識・理解」がやや低いという結果でした。

また、読み解く力に関する内容については、教科によって異なりますが、「解決する力」が十分ではありませんでした。この二つを関連付けて考えると、学習活動の中で課題をもち考え判断する力は身に付いているが結果として得た知識や理解した内容が十分に定着していないことが考えられます。授業の中で理解した内容や知識を定着させ、課題解決に活用する力を高めるためには、朝授業で知識を伸ばし、授業で応用問題に取り組む機会を積極的に設ける必要があると考えています。

(2)教科別結果

2年		平均正答率		備 考	分 析
		本校	都		
国 語		71.0	73.0		教科の内容については、都の平均を2.4ポイント下回ったが、読み解く力については都の平均を0.3ポイント上回っている。 「書く力」については都の平均を2ポイント上回っているが、「言語についての知識・理解」と「読む力」については3ポイント程度下回っており、課題である。朝授業や漢字の小テストなどを充実させ、漢字の読み書きや語彙力の向上など基礎的な学力の向上を図り、文章の内容を的確に捉え、問題に正対した解答ができる力を身に付けさせる。
観点別 正答率	国語への関心・意欲・態度	95.3	96.9		
	話す・聞く能力	67.6	69.9		
	書く能力	72.0	70.2		
	読む能力	53.7	56.9		
	言語についての知識・理解・技能	73.1	77.0		

2年		平均正答率		備 考	分 析
		本校	都		
社 会		58.9	56.2		教科の内容については3.1ポイント、読み解く力については1.3ポイント都の平均を上回っている。特に内容の「思考・判断・表現」については、都の平均を3.1ポイント上回っており、授業の中で主体的に資料や地図帳などを活用して自分で調べたり、教師の説明を聞いて重要だと感じた部分を自分でノートにメモしたりする活動が有効に働いていると考えられる。 今後こうした活動を継続し、苦手な生徒への個別指導の充実を図っていく。
観点別 正答率	社会的事象への関心・意欲・態度	96.3	94.0		
	社会的な思考・判断・表現	50.6	44.3		
	資料活用の技能	56.1	55.2		
	社会的事象についての知識・理解	60.9	58.3		

2年		平均正答率		備 考	分 析
		本校	都		
数 学		52.0	53.3		教科の内容については都平均と同程度で、観点別は技能で都平均よりも1.5ポイント下回ったが、他の観点は都平均を上回っている。 読み解く力については都平均より6ポイント近く下回り、「取り出す力」は10ポイント以上高いが、「読み解く力」が13ポイント、「解決する力」が14ポイント下回っており課題である。応用問題や文章問題を解く演習時間を取り入れ、身に付いている「思考力・判断力」を活用しながら、解決する力を伸ばしていく。図形や統計・グラフの単元において「読み解く力」を高めるための指導時間を増やしていく。
観点別 正答率	数学への関心・意欲・態度	87.9	85.7		
	数学的な見方や考え方	51.2	48.1		
	数学的な技能	58.1	59.6		
	数量や図形などについての知識・理解	64.8	61.3		

2年		平均正答率		備 考	分 析
		本校	都		
理 科		53.2	56.6		教科の内容、読み解く力に関する内容ともに都の平均を下回った。教科の内容では「知識・理解」の観点が5.4ポイント下回っており、実験や観察を通して得た結果を知識として定着させることができなかったためと考えられる。逆に読み解く力の(課題を)「取り出す力」や「読み取る力」は都の平均を若干上回っている。これは実験等を行う際、解決すべき課題を明確にしたり、実験経過を読み取る活動を繰り返してきた成果だと考える。今後は実験などの活動から得られた結果を知識として定着させる指導を充実させる。
観点別 正答率	自然事象への関心・意欲・態度	83.6	89.0		
	科学的な思考・判断	45.8	48.3		
	観察・実験の技能	72.0	74.6		
	自然事象についての知識・理解	48.8	54.2		

2年		平均正答率		備 考	分 析
		本校	都		
英 語		65.7	65.0		教科の内容、読み解く力に関する内容ともに都の平均を上回った。教科の内容では「外国語表現」が4.2ポイント、「外国語理解」が4.9ポイント都の平均を上回り、「知識・理解」が3.4ポイント下回った。また、読み解く力に関する内容では、「取り出す力」「読み取る力」は若干下回ったが「解決する力」が4.7ポイント上回った。英語については学力の二極化が懸念されており、習熟に応じた個別指導をさらに充実させ、基礎的な語彙力の伸長を図る。
観点別 正答率	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	81.8	91.4		
	外国語表現の技能	53.3	49.1		
	外国語理解の能力	71.7	66.8		
	言語や文化についての知識・理解	62.1	65.5		